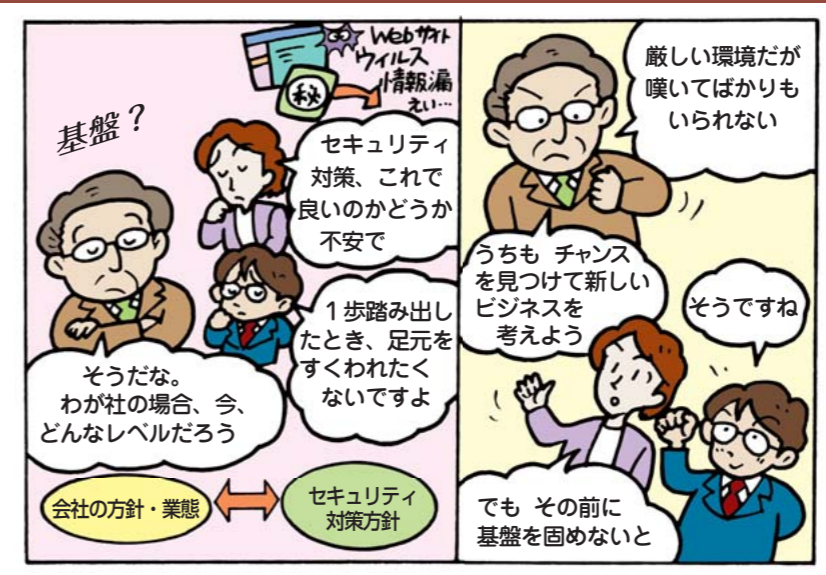


「いざ、新規事業へ」…とその時に足元をすくわれなかったためのセキュリティ体制を



【今回のテーマ】 本業に専念できる体制をどう作る？



どの程度のセキュリティ対策をしておけばよいのだろうか…

景気環境は徐々に回復の兆しが見えてきている。中堅中小企業が積極的に投資に踏み込む率はまだ10%程度といわれるが、大企業の新規事業投資が増加するにつれ、その流れはいずれやってくるはずだ。では、好機が到来した時に全力疾走できるように、現段階で準備すべきことは何だろうか。

セキュリティ対策の基盤は？ 第三者の視点でチェック

まずその一つは、情報漏えいなどの事故によって足元をすくられないよう、しっかりとしたリスク管理体制を整備しておくことである。しかし、セキュリティ対策に関しては様々なITツールが混在し、何を、どの程度対策しておけばよいかがわかりにくいことが

課題だ。かといって、事業内容や利用しているITシステムによって打つべき対策が変わるので、他社の方法を丸ごと真似するわけにはいかない。では、自社に最適なリスク管理の基準をどうやって見い出せばよいのだろうか。そこで活用したいのが、情報セキュリティ会社のラックが提供する「セキュリティガバナンス診断」である。「ガバナンス」とは「基盤」の意味であり、本サービスは社内のセキュリティポリシーや運用体制などが適切かどうかを分析するものだ。

様々な法規制を研究し オリジナルのフレームを構築

ラックでは、個人情報保護法やISMSなどセキュリティに関する

ITコーディネータからの回答&アドバイス

「セキュリティガバナンス」の整備が事業の成功基盤を作ります



株式会社ラック IT戦略推進センター センター長 谷 英幸氏 (写真左) 同センター コンサルタント 田口智子氏 (右)

セキュリティ対策と一口に言っても、システムごと、企業ごとに重視するものが異なります。扱う情報により、機密性が第一なのか、止まらず動き続ける可用性を優先させるのかを判断することが必要で、そのことにより具体的なセキュリティ対策の内容も変わってきます。その方針を定めるのがガバナンスであり、企業の経営戦略と密接な関係があります。

リスクを回避しようと次々セキュリティツールを導入した企業が、保守契約の更新時にその膨大な量に驚き「どれが必要で、どれをはずしてよいかわからない」とご相談にこられた例もあります。こうした場合もポリシーに沿って点検することで、経営者の方が最終判断を下しやすくなります。投資を抑え気味の今の時期こそ、来たるべき時に備え、セキュリティガバナンスをしっかりと整えて、企業の基盤を固めておきたいものです。



る様々な法規制の内容を研究し、オリジナルのフレームワークを作り上げた。本サービスでは左上表に挙げた11のカテゴリに沿って調査を行う。



品を出庫している会社なら、システムへの影響が少ない対策が重視されるだろう。

まず、診断のポイントとなるのが、社内規程や文書類である。書類を見ると定められているポリシーやリスク管理の基準がわかる。その上で担当者にはアリンクを行い、運用の実態や社内規程の周知度合いを調べる。「ルールはあるものの理想とするレベルが高すぎて現場に十分浸透していない」例もあり、その場合は修正案の助言や従業員教育の支援も行っているという。

リスク管理の内容やレベルを最終決定するのは経営者である。その判断に役立つよう、経営方針を理解したうえでセキュリティ対策の過不足をアドバイスするのが「セキュリティガバナンス診断」なのである。対策を怠って「いざ新規事業を」という時につまずくのは困るし、リスクが気になりすぎて過剰投資になるのも良くない。こうした診断サービスをうまく取り入れ、本業に専念できる体制を構築したい。

※1 ISMS…情報セキュリティマネジメントシステム

セキュリティ対策は経営戦略に沿って設計・運用されていますか? ラックが提供する「セキュリティガバナンス診断」

- 個人情報保護法やISMS※1などの条件を踏まえつつ、ラックが独自に開発したフレームワークにより現状を調査
各種セキュリティ施策を有効に機能させるための対策案を経営方針に即して優先順位をつけて提示

<調査カテゴリ>

Table with 2 columns: Security Policy, Risk Assessment, Compliance, Audit/Supervision, Rule Preparation, Incident Management, Organization/Role, External Commission Management, Human Asset Management, Business Continuity Management, Education/Training.

費用の例

企業規模: 資本金9000万円、売上約100億円
支援内容: 各項目での実施の過不足確認
費用: 20万円

本サービスは、一律の基準で判定を下すのではなく、企業ごとの事業内容や経営者のポリシーに沿って漏れや無駄をフィードバックするのが大きな特長だ。
例えば、最近では大企業が個人情報を持たずに取引先に情報を預けて作業を委託する例があり、こうした場合はサーバの設置場所一つにしても慎重な管理体制が求められる。一方で、毎日、多数の商

お問い合わせ先 株式会社ラック

東京都千代田区平河町2丁目16番1号 平河町森タワー
http://www.lac.co.jp/compass/
電話: 03-6757-0113
メールでもお気軽にどうぞ biz-advisor@lac.co.jp
「COMPASSを見た」とお伝えください。

